

# Is the Truth-Telling Equilibrium Salient?: An Experiment on Direct Nash Implementation

水上英貴<sup>1</sup> 二本杉剛<sup>2</sup> 若山琢磨<sup>3</sup>

## 要旨

本論文では、メカニズムが複数均衡を持つ際に起こりうる個人間の協調の失敗を、フォーカル・ポイント(Schelling (1960)) によって避けることができるかどうかを実験によって検証する。本論文では完備情報下の直接表明メカニズムによる社会的意思決定を考察しているため、フォーカル・ポイントとなりうる均衡として、正直均衡が考えられる。よって、同一の社会選択関数を遂行するメカニズムとして、複数均衡の一つに正直均衡を持つメカニズムと持たないメカニズムを設計し、どちらがより高い均衡達成率を実現するのかを実験によって比較した。その結果、正直均衡を持つメカニズムの方が高い均衡達成率を示すことがわかった。

Keywords: Schelling's Focal Point, Experiment.

JEL Classification Numbers: C72, C91, D71.

---

<sup>1</sup> 富山大学経済学部

<sup>2</sup> 大阪大学経済学研究科・日本学術振興会特別研究員

<sup>3</sup> 龍谷大学経済学部